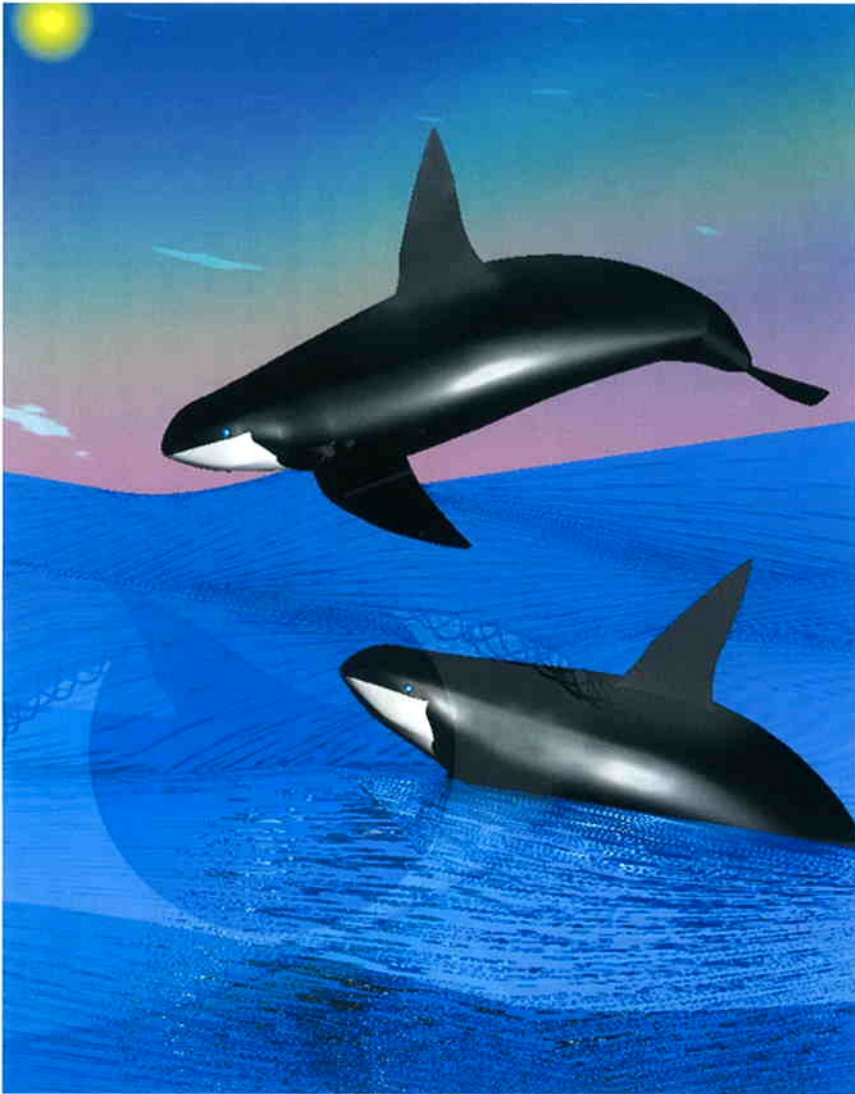


Que Será, Será

VOL.41
2005
SUMMER



「オルカ」 作者：金城太亮

パニック障害の発病は氏か育ちか？

その(1) 遺伝子の関与はあるか？

医療法人和楽会理事長 貝谷久宣



パニック障害の患者さんまたはそのご家族に「この病気の原因は何ですか？」としばしば質問されます。筆者は「不安体質とストレスの総合作用です」と答えています。今回と次回はこのことについてパニック障害に関する研究成果を紹介しつつもう少し詳しく説明したいと思います。

不安体質が発病の原因と なっていることを示す事実

心理学では行動抑制(Behavioral Inhibition)と言う用語があります。これは、「ひとみしり」、「内気」、「はにかみ」、「引っ込み思案」、「臆病」といった言葉で形容される状態です。パニック障害を親に持つ子では約80%に行動抑制が見られるのに対して、親がパニック障害ではない子では20%に過ぎないといわれています。

また、逆に行動抑制を示す子の親にはパニック障害や対人恐怖が多いといわれています(Biederman, J, 1990; Rosenbaum, JF, 1991)。このような事実は、行動抑制がパニック障害の根拠をなす不安体質の一つの現れであることを示しています。そしてこの不安体質は家族性に生じるということが出来ます。

また、幼少児期の分離不安も心理学の言葉として時々使われます。分離不安は、強く愛着を持っている人、たとえば、母親や養育者から離されたときに強い不安を示す状態です。このような子供は、常に、親がいなくなるのではないかと、親が死んでしまうのではないかと強く心配